

## 比企の歴史まるわかり! 9市町村広報リレー

小川町

版



鎌倉 妙本寺総門



比企一族が眠る墓域 妙本寺境内

### — 鎌倉と小川を結んだ仙覚 —

#### 仙覚律師とは

鎌倉時代の僧侶で13歳から鎌倉の新釈迦堂等で修業をしながら、『万葉歌』の研究に一生を打ち込みました。64歳で難しい悉曇文字や万葉仮名のため、全く読めなかった152首を含め4500首以上の歌を全て読み『万葉集』を完成させた人物です。

#### 仙覚律師と小川町

『万葉集』完成後、仙覚律師の研究地が小川町に移ります。難解な『万葉集』を後世に託すには、解説書が重要であるとして編さんにとりかかり、日本初の『万葉集註釈』を小川町で完成させました。

『万葉集註釈』奥書に「文永6(1269)年3月2日に麻師宇郷(ましうごう)で書写した」と仙覚が書き残しています。小川町が『万葉集』のゆかりの地であることを物語っており、業績をたたえる4mを超える仙覚律師顕彰碑が中城跡に建つ所以です。

問合せ 小川町にぎわい創出課 観光・地域PR担当  
☎72-1221

### — 比企一族と「鎌倉殿の13人」 —

源頼朝は13歳の時、平治の乱で父・義朝が破れ、伊豆の蛭ヶ小島に流罪となりました。

厳しい生活を送る頼朝に、乳母で養育係であった比企能員は、比企の地から比企能員とともに、平家のとがめを怖れず20年間に渡って支援を続けました。この恩に頼朝は、鎌倉に幕府を開くと比企一族に、現在の比企谷と妙本寺周辺に広大な土地と屋敷を与えました。

比企一族と将軍との間に姻戚関係が深まり、幕府の重責を担うようになると、幕府の実権をねらう北条時政にとっては重大な懸念材料となりました。頼朝が落馬事故で死去し、頼家が2代将軍になるとその実権を取り上げ、13人の有力御家人による合議体制を一方向的に決定。

「鎌倉殿の13人」の誕生です。

### — 比企一族の滅亡と仙覚 —

比企能員も「13人」の1人です。

しかし、実権を握ったのは北条時政・政子です。ここから陰謀と抗争、暗殺がはじまり、比企一族が悲運に見舞われました。時政は薬師如来の落慶法要と偽って能員を私邸に呼び出し暗殺、さらに大軍で比企の館を襲い一族を滅亡させました。これが比企の乱です。

この年、仙覚が常陸国(茨城県)で生まれており、比企一族と深い係りのある人物と伝わります。

#### 小川町・仙覚律師遺跡碑

高さ4m・横1.2m  
厚さ20cmの巨碑撰文

佐佐木 信綱



小川町イメージキャラクター  
『星夢ちゃん』



1月は比企一族の菩提寺「金剛寺」のある川島町です。